「常呂川下流地区水害タイムライン検討会」（第13回）

令和6年7月6日に、「常呂川下流地区水害タイムライン検討会(第13回)」を現地・オンライン併用にて開催しました。

タイムライン（事前防災行動計画）とは、災害が発生する前に地域住民が安全かつ円滑な避難を行うために、防災関係機関が連携して災害時に発生する状況を予め想定し共有したうえで、防災行動の項目やタイミングを検討・整理した計画です。今回の検討会では、令和元年に作成した「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」を用いて、防災行動の検証訓練を実施しました。

■ 開催日時　令和6年7月6日（土）9:00 ～ 16:30

■ 実施場所　Web開催 （補助会場：常呂町公民館)および常呂自治区日吉・福山地区

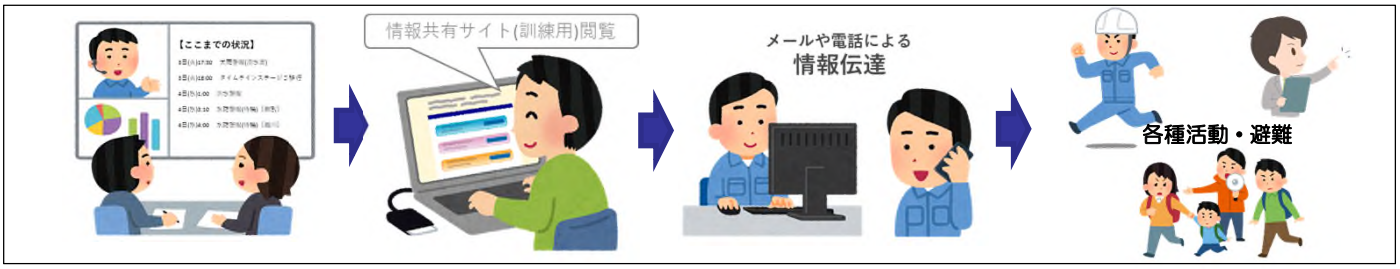
■ 参加機関　北見市、網走開発建設部、網走地方気象台、北海道オホーツク総合振興局、北海道警察、北見地区消防組合、北見市社会福祉協議会、常呂町農業協同組合、常呂漁業協同組合、北海道電力株式会社、東日本電信電話株式会社、町内会（日吉、福山）

計 14機関　98名（避難訓練に参加の住民を含まず）

検証訓練の概要

今回は、北見市常呂自治区における水害発生を想定したシナリオを用いて、「常呂川下流地区水害タイムライン試行版」のタイムラインステージ2の途中（前日夕方にタイムラインステージ2に移行し、朝から雨が降り始めている状況）から開始しました。

訓練では、訓練用Webサイトにリアルタイムで気象情報、雨量、水位情報等を配信し、各機関がその状況を確認したうえで防災対応や住民避難に関する防災行動の手順を確認したほか、他機関との情報伝達のタイミングや手順、伝達内容を確認しました。令和4年度、令和5年度と同様にWeb会議ツールを活用し、タイムラインステージ移行や避難情報発令等の判断などの関係機関の協議を実施したほか、日吉・福山地区で避難情報と連動した住民等の避難訓練を実施しました。なお、今年度の訓練では例年の訓練からシナリオに変更を加えるとともに状況付与を増やし、訓練難度を引き上げました。また、破堤後の行動内容や影響内容についても確認を行いました。



訓練の流れ（イメージ）

北見市常呂総合支所の訓練状況

北見市常呂総合支所では、支所庁舎内に自治区災害対策本部を設置しました。

自治区災害対策本部では、訓練用Web会議とは別回線で北見市本庁の災害対策本部とのWeb会議を常時接続して適宜、本庁との情報共有・協議を行いました。

常呂総合支所（自治区災害対策本部）

北見市本庁との協議

北見市本庁の訓練状況

北見市本庁では、本庁庁舎内に災害対策本部を設置しました。

市長（役）に対する資料作成と報告、北海道防災情報システム（訓練モード）への入力、市民広報資料の作成等も併せて実施しました。

また、国・道などの関係機関からは北見市本庁にリエゾンを派遣し、情報提供・協議を行いました。

北見市本庁（災害対策本部）

市長役への報告・協議

日吉・福山地区の住民避難訓練状況

日吉・福山地区ではコミュニティタイムラインに基づき、常呂総合支所からの情報連絡を受けて連絡網による避難情報の伝達確認と避難訓練を実施しました。日吉・福山地区のコミュニティタイムラインでは農機具等の高台への避難も記載されており、この行動についても実際に確認しました。日吉・福山地区の避難所である日吉会館では、訓練前日に避難所の設営を実施し、当日は、避難者の受付や避難者名簿の整理など対応の確認を行いました。

また、避難訓練後には参加住民を対象として有識者による講評・講演が行われました。

避難所入口での受付

避難者名簿への記入

農機具の高台退避

有識者による講評・講演

講評

訓練終了後には、北見工業大学渡邊教授、日本赤十字北海道看護大学災害教育対策センター長根本教授、座長である東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター松尾客員教授より講評を頂きました。各有識者からの講評は次の通りです。

＜北見工業大学　渡邊教授の講評＞

タイムラインの取り組みを始めた当初から比べると比較にならないほど情報伝達や行動確認がしっかりできるようになっていると感じた。今日の訓練で課題などが見えてきた部分もあると思うが、これを機に解決してより良いものにしていくとともに、実際の災害対応に役立てて欲しい。

＜日本赤十字北海道看護大学災害教育対策センター長 根本教授の講評＞

昨年の訓練でやっていたからこそスムーズに出来るようになったこともあるように感じた。実際に昨年度の訓練よりも上手く動けている場面も見て取れた。今回の訓練で出てきた「良い課題」があるはずである。訓練で抽出された課題はネガティブな物では無く、次に繋がる良いのものであると確信している。今回の訓練で見えてきた課題を上手くまとめ、次に繋がるようにして欲しい。その中で保健・医療に関わる部分で1点指摘しておきたい。今回の訓練でも避難所での熱中症対応などの状況付与があった。119番通報では確実に限界が出てくる。DMATや災害時拠点病院の動きが重要になる。これらの保健・医療との連携も含めた発展検討をしていくとより現実的な計画に落とし込めるのではないかと考えている。

＜座長　東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 松尾客員教授の講評＞

今回のように防災関係機関の訓練と地域住民の避難訓練を同じ時間軸の同じシナリオ内で実施することは非常に有意義であると考えている。常呂川下流地区水害タイムライン検討会での最初の訓練はタイムライン表の読み合わせから開始したことを記憶しているが、このようなリアルタイムでの対応を確認する訓練にまでブラッシュアップされていることに敬意を表したい。他の地域でのタイムライン訓練は情報伝達訓練に特化したものがほとんどで今回のような訓練を行っている地域は無い。今回のような訓練は災害対応のノウハウや経験を継承していく上でも重要な取り組みであり、他地域の手本となるものであると考えている。今回の訓練を踏まえて、これからの台風シーズンに備えて頂きたい。

渡邊教授より講評

根本教授より講評

松尾座長より講評

連絡・閉会

これからの本格的な台風シーズンに向けて連携と対応を依頼し、第13回検討会は閉会となりました。